会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（室田自治会）
2　日時	平成 30 年 9 月 9 日（日）19：00～20：00
3　場所	松林公民館
4　出席者	（資源循環課）原田副主査 （環境事業センター）加茂主任、鈴木主事 （室田自治会）参加人数：47 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●有料袋の大きさについて、５リットル以下は設けないか。電動生ごみ処理機を使用しごみを減らしており、一回分のごみを排出するのに５リットルの袋では大きすぎる。ごみの減量に努めている人にとっては、小さい袋がないと過剰な負担になってしまう。 →県内４市や全国の状況を見ると、袋のサイズは４～５種類、最小のサイズは５リットルというところが多い。多くのサイズを作製するとコストが高くなるということもあるが、ご意見のとおり減量に努めている方に過度な負担が生じないよう、今後袋のサイズ設定について検討していきたい。 ●有料化の対象ごみはどのようになるか。 →県内４市では、燃やせるごみと燃やせないごみを対象としている。東京の多摩地区では資源物を対象としているところもある。本市で実施した場合にどのようになるかということについては、費用対効果を踏まえ、今後検討していきたい。 ●大きいごみで 40 リットルの袋に入りきらないものはどのように扱うのか。 →先進市では、入りきらないものには、袋を貼り付けていただく対応を取っている。 ●市から交付されている資源物の補助金の取扱はどのようになるか。 →現在、補助金の取扱に関して、具体的な検討は行っていない。ごみの適正な分別に努めていただくことで、資源物の収集量が増えれば、その分交付される金額も増えるということになる。 ●補助金の制度は、是非継続して実施していただきたい。 ●戸別収集を実施した際にカラスの被害が減るということであるが、各家庭での対応について、市としてどのような指導をしていくか。 →市から強制的に指導をするのではなく、各家庭の判断に任せる形でポリバケツなどを用意していただくような対応をお願いしている。戸別収集の際に市がお願いする内容としては、市職員が民地に立ち入ることができないため、公道と宅地の境界部分にごみを出すよう徹底していただいている。

●市民集会でも議題にしたが、有料化を実施し市民に負担を求めるのであれば、併せて戸別収集も実施するよう要望したい。有料化と戸別収集について、今後どのように検討を進めていくか。
→戸別収集の実施については、市民集会や他の自治会からも多くのご意見をいただいている。鎌倉市と逗子市で戸別収集を実施していない理由としては、費用がかかりすぎるためであるが、将来必要となる施設整備や灰の処分に掛かる財源を確保しなければならないという本市の課題を踏まえ、今後ごみ処理を安定的に継続していくことを考えると、戸別収集を赤字で実施することは困難である。現在、戸別収集に掛かる費用を算出している段階であり、その結果を踏まえ、有料化と戸別収集を実施するのかしないのか、するのであればどのような形で実施するのか、来年度中に方針を示していきたい。具体的な費用などが出た段階で、市民の皆様にもお示しさせていただく。

●藤沢市の職員が非常に苦労して収集している姿を見かける。戸別収集は市民にとって便利であるが、それなりの負担が伴うものであると思う。

●プラスチック製容器包装類について、汚れているものの基準が分かりにくく判断しづらい。
→プラスチック製容器包装類の分別については、統一の基準がなく、多くの方から分かりにくいといったご意見をいただいている。茅ヶ崎市では、プラスチック製容器包装類でも汚れていれば、燃やせるごみで出してもらうようにしている。理由としては、汚いものが混在すると、きれいなものに汚れが付いてリサイクルができなくなってしまうためである。簡単に洗い流す程度で、汚れが落ちるものは努力してプラスチック製容器包装類として捨てていただき、多量の水や洗剤を使わなければ汚れが落ちないものついては、燃やせるごみとして捨てていただきたい。
●プラスチック製容器包装類に付いているラベルは剥がした方がよいのか。
→できる範囲で剥がしていただきたい。

●戸別収集について、集合住宅の場合はどのような対応になるのか。
→各部屋まで収集に行くことは、経費や効率性の面から困難であるため、大規模な集合住宅については、戸別収集になっても同様の収集方法となる。小規模な集合住宅で、地域の集積場所を共有しているものについては、建物に対し新たに一箇所集積場所を設けるような対応が先進市では取られている。
●状況が変わらないのに、費用負担だけ増すということか。反対意見が多く出るのではないか。先進市ではどのように考えていたのか。
→そのとおりであり、集合住宅にお住まいの方からは当然意見が寄せられることを想定している。市として受け止めざるを得ないと考えている。先進市でも同様の意見が寄せられたと聞いているが、ご理解をいただき戸別収集をスタートしている。

	●プラマークがないプラスチック製容器包装類は、燃やせるごみとして出してよいのか。個包装には書いていないことも多い →燃やせるごみとして出していただきたい。個包装に書いていなくても、外包装などに書いてあるものもあるので注意して見ていただきたい。 ●有料袋について、小さい袋はカラスに狙われやすいので、大きな袋を使用し、排出量が少ない方は数回分をためて出してはどうか。 →先進市では、コンビニやスーパーで複数のサイズを設けた指定の有料袋を販売し、市民の方に各家庭のごみの量に応じたサイズの袋を購入していただいている。生ごみを捨てることを考えると、臭いなどの問題もあり大きな袋に数回分ためることは現実的に難しいと考える。 ●有料化を実施する理由が、市の人口が減り、税収が減るためであると受け取れる。将来の財政状況を考慮した上で、戸別収集を実施すると赤字になるのであれば、有料袋の値段を更に高く設定する必要があるということか。 →近隣市で設定している１リットルあたり２円という数値は、全国的なデータから減量効果が高く、その後のリバウンドが少ない値ということで、算出されているものである。先進市においても、袋の手数料で全ての経費を賄いきれているわけではない。仮に戸別収集に掛かる費用を全て有料化の手数料で賄うとするならば、一袋あたりの値段はとても高い金額となってしまい、市民負担を考えると現実的ではない。今後の有料化と戸別収集の検討にあたっては、有料化によりどの程度財源を確保できるのか、戸別収集を実施した場合にどの程度費用が掛かるのか、といったバランスを見ながら検証をしていく必要がある。また、経費削減の観点から収集方法の見直しや効率化についても併せて検討していく。 ●逗子市や鎌倉市では、費用がかかりすぎるという理由で戸別収集を実施していないのか。 →戸別収集を実施した場合にかかる費用を試算したところ、多くの費用が見込まれたことから実施をしなかったということである。藤沢市においは、有料化の手数料収入に比べ５億円程度、戸別収集にかかる費用が上回っている。それでも藤沢市が実施したのは、市民の利便性を優先したためである。 ●施設整備や最終処分場の課題と、有料化、戸別収集の話は次元が違うように思う。市は足りない財源を確保するために有料化して市民に負担を求めたいという話をしているように思える。戸別収集で多くの費用が見込まれるのであれば、市全体の予算の中で組み換えなどを考えていかなければならないと思うがいかがか。説明の中に様々な話題が混在していて、市民としては判断がしづらい。

	→説明に関し、うまく伝え切れなかったことについてはお詫び申し上げたい。市の財政状況についてお話させていただいたが、環境の分野に限らず、様々な部局で市民のニーズを踏まえ、予算化し事業を実施している。また、実施にあたっては経費の削減や財源の捻出など、様々な工夫や効率化を図りながら進めているところであり、予算を組み替えることで今以上に予算を確保するということは難しい状況にある。そういった状況もあって、本日は、今後新たな財源を捻出する必要があるといったお話をさせていただいたが、財源の話が強く印象付けられてしまった点は申し訳なく思っている。一番にお伝えしたかったのは、ごみを減らす必要があるということで、有料化や戸別収集によりごみを減らし、環境への負荷やごみ処理経費の削減を図っていきたいというのが本日の趣旨である。 ●来年度に方針を決定するということであるが、その際には条例改正や市民意見の募集などがされるか。 →方針を決定する前の段階で、パブリックコメントを実施させていただく。方針決定した場合でも、その後すぐに有料化や戸別収集が実施されるわけではなく、市民の皆様に混乱が生じないよう必要な準備を進めていく必要がある。その際には、市民の皆様や議会に説明させていただきたい。 以上